



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	プレゼン発表の方法② ～スライドの作成～
Author(s)	多田, 泰紘
Description	主催 : 北海道大学ラーニングサポート室, 北海道大学附属図書館
Relation	アカデミックスキルセミナー 論文・レポート執筆とプレゼン発表へ向けた 研究の始め方・進め方セミナー. 2015年7月2日 (木), 北海道大学附属図書館, 札幌市
Issue Date	2015-07-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/59537
Type	lecture
File Information	academicskill06.pdf



論文・レポート執筆とプレゼン発表へ向けた 研究の始め方・進め方セミナー

プレゼン発表の方法② スライドの作成

ラーニングサポート室 (LSO) 附属図書館

担当: LSO 特定専門職員 多田泰紘

目次

0. プレゼンとスライド	1
1. スライド作成のコツ	2
2. ダメスライドを直す	4
3. 最後の準備	6
4. 参考文献の紹介	7

【注意】

本資料は研究成果を保証するものではありません。必ず、指導担当の教員と相談の上、研究を進めてください。なお、本資料で使用している研究データ等は架空のものです。

0. プレゼンとスライド

■ プレゼン と スライド は好相性。

[例]

プレゼンは読ませてはいけない。➡ 視覚表現は 情報を抑える ことが出来る。

プレゼンは考えさせてはいけない。➡ 視覚表現で 視線をトピック へ誘導。
ここがポイント

視覚表現に優れるスライドは効果的

絵や写真, 色をうまく使おう。



■ ポスター は一枚の大きなスライド



全情報を 1 枚のポスターに盛り込む

➢ 読む順序 (番号) を示す

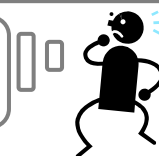
聞き手との距離が近い

➢ 質問には随時答える

ここがポイント

ポスターは、読むだけで一通り分かるように作る

細かい記述があるのは仕方ない…。



コラム～スライド作成ソフト～

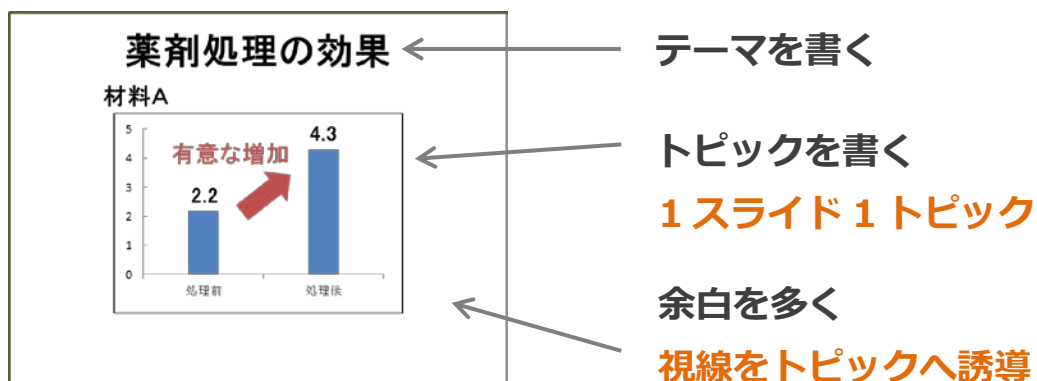
スライド作成ソフトとして、Microsoft の PowerPoint と Apple の Keynote があります。どちらも直感的な操作で、プレゼン用のスライドを作ることができます。研究者にとってスライド作成は必須のスキルですので、操作方法をマスターしておきましょう。

しかし、その表現方法の多彩さ、多機能さに目的を忘れてはいけません。きれいな、カッコいいスライドを作ることが目的ではありません。プレゼンの主役は演者が語るその内容です。

スライドさえ入り込む余地がない、演者の語りだけで聴衆を魅了するプレゼンが究極のプレゼンでしょう。

1. スライド作成のコツ

- 1 枚のスライドを作る順序。
 - 1) 文字と絵を配置する。
 - 2) 文字を調整する。
 - 3) 色を調整する。
- 文字と絵を配置する。



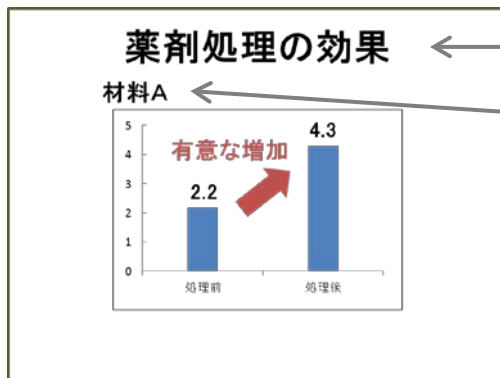
ここがポイント

1 スライド 1 トピック

トピックが複数ある時は、
スライドを分割する。



■ 文字を調整する。

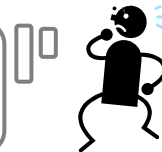


タイトル 40~pt
地の文 20~24pt
日本語 ゴシック体
英数字 Arial
Calibri

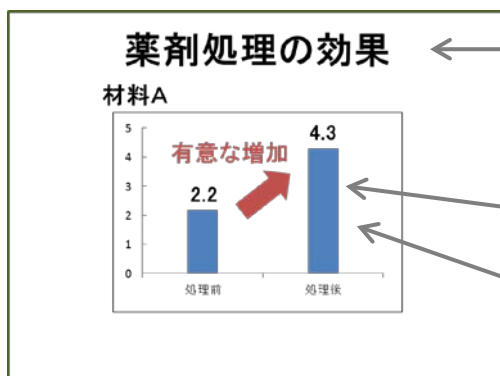
ここがポイント

文字を強調するときは、**暖色**、**太字**、下線を使う

バラバラな文字種は避ける。
斜体や**明るい暖色**も見にくい。



■ 色を調整する。



基本は灰色・黒
矢印記号も基本は黒系
トピックは**暖色**
ワンポイントの**寒色**

ここがポイント

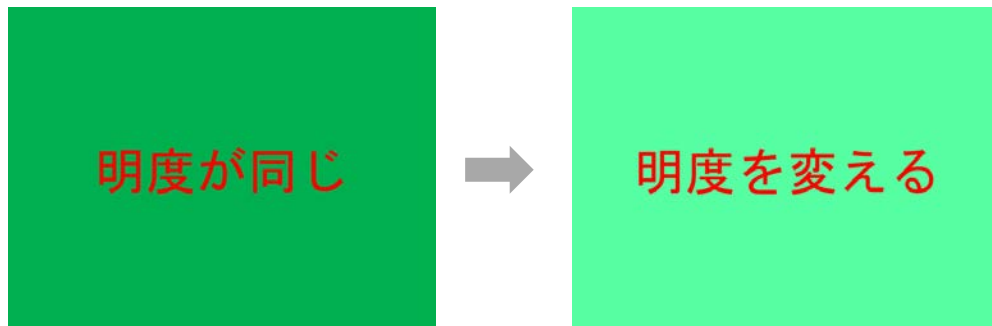
黒、**暖色 1 種**、**寒色 1 種**の 3 色で統一

4 つ 1 組の要素（四季など）は、
4 色で塗り分けると分かりやすい。



- 色の組み合わせに気を付ける。

[例] 補色（赤と青緑など混ぜると灰色になる組み合わせ）は明度を変える。



[例] 写真に文字を重ねる時は縁取りする, 透かしを入れる。



コラム～ユニバーサルデザイン～

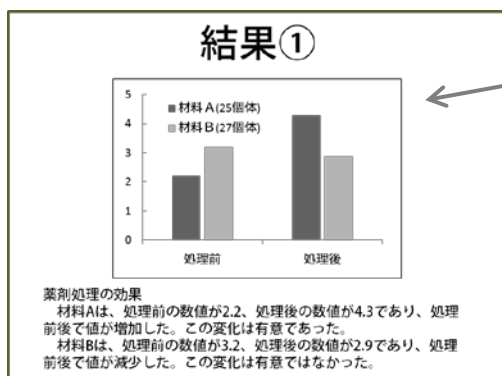
文化や障がいのあるなしに関わらず、多くの人が利用できる製品やサービスの形態をユニバーサルデザインと言います。スライドにもユニバーサルデザインの考え方が浸透してきています。具体的には、様々な色覚の人にも見やすい色を使い方が求められています。

しかしながら、多くの場合、色覚は生まれつきのもので変わりません。どうすればユニバーサルデザインを実践できるのでしょうか。ひとつの方法として、スライドの表示を グレースケール に変更してみてください。色彩をあえてなくすとどうでしょうか。自分は見やすいと思った色が急に見にくくなったり、暖色で強調した文字が急に目立たなくなったりするのではないのでしょうか。この方法ですべてが解決するわけではないかもしれませんが、ユニバーサルデザインへの一歩となるでしょう。

2. ダメスライドを直す

- スライドを修正するときのポイントと手順。
 - 1) トピックの確認。1 スライド 1 トピックにする。
 - 2) タイトルの付け方, スライド全体の文字量を調整する。
 - 3) 強調点を目立つようにする。最終調整。

- トピックの確認。1 スライド 1 トピックにする。

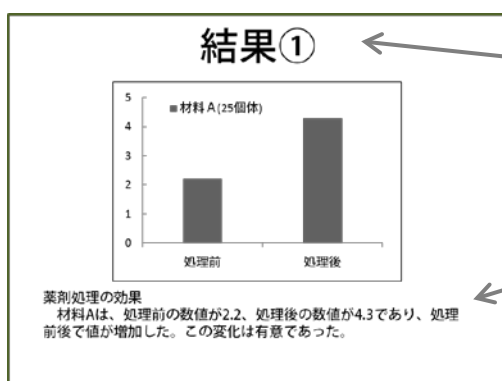


トピックがふたつ
(材料 A と B)



トピックをひとつに
(材料 A を残す)

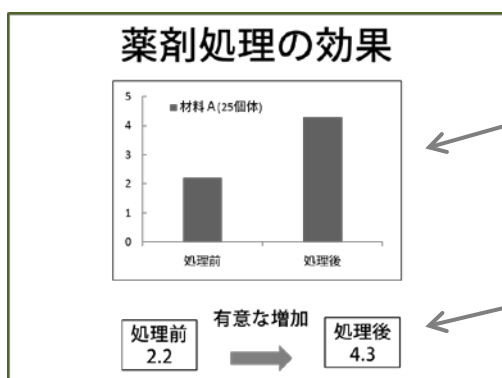
- タイトルの付け方，スライド全体の文字量を調整する。



タイトルをテーマに
(薬剤処理の効果)

文章が多い
(記号化を考える)

- 強調点を目立つようにする。最終調整。



強調点に色を付ける
(トピックは暖色)

余白は多いほうが良い
(グラフと融合する)

ここがポイント

スライドの改良は必要な情報を見直すところから

詳細は口頭で説明できる。



- 修正完了。

薬剤処理の効果

材料A

処理前	処理後
2.2	4.3

テーマをズバリ書く

トピックに視線を誘導

情報量は抑える

余白は残っていても OK
(トピックが伝わる)

コラム～アニメーションの罠?!～

先のコラムでスライド作成ソフト（PowerPoint など）の紹介をしましたが、発表をこれらで行う必要はありません。私のオススメは PDF を用いた発表です。作成は専用ソフトで行い、完成したところで PDF ファイルに変換します。PDF ファイルの最大の利点は、その汎用性の高さです。PC 機種の違いやソフトのバージョンの違いを気にする必要がありません。発表中のトラブルを極力抑えることが出来ます。

他方、PDF ファイルの弱点はアニメーションなどに対応できないことです。しかし、プレゼン発表でアニメーションがどうしても必要になる場面はほとんどありません。シンプルを目指すプレゼンにアニメーションはかえって邪魔かもしれません。トラブルの元になったりします。

一度、PDF ファイルでプレゼン発表を試してみてください。驚くほどさくさくプレゼンが出来ると思います。

3. 最後の準備

- 発表会場へ向かう前に準備をする。
 - 各スライドのトピックを **キーワード化** して覚える ➡ 原稿替わりになる。
 - 配布資料** を作る。 ➡ スライドの印刷よりは、**完結した読み物** が良い。
 - 発表練習** を行う。 ➡ 周りの人に感想を聞いて、改良する。
- 発表会場へ着いたら最後の確認を行う。
 - 会場の **広さ** を確認する ➡ スライドの見やすさ、声の聞こえやすさを確認。
 - PC、マイク、レーザーポインタの確認を行う。 ➡ 操作の仕方をマスターする。
 - スライドの動作** を確認する。 ➡ 避けられるトラブルを避けるための準備。

- 発表中は聴衆に気を配る。

最初は緊張する。➡ 落ち着いたら **ゆっくり** 話す。

レーザーポインタの使い方。➡ ピンポイントを示す。 **指し続けない**。

周りを見る。➡ 聴衆とアイコンタクト。

コラム～シンプルの真髄!!～

スライドをシンプルに作ることで、聞き手が分かりやすい、理解しやすいプレゼンに出来ることを説明してきました。しかし、話し手もシンプルの恩恵を受ける対象です。テーマとトピックが見た瞬間に分かるスライド、緊張した壇上でこれほど自分を助けてくれるものは他にありません。スライドいっぱい文字とグラフと表がちりばめられたスライドを想像してください。どんなに発表慣れた人でもうんざりするでしょう。緊張でパニックになるかもしれません。試行錯誤を重ね、シンプルに作ったスライドであれば、頭が真っ白になっても、何を言えばよいかその場で考えることも出来ます。話し手にとって、安心感がシンプルなプレゼンの恩恵でもあるのです。

4. 参考文献の紹介

TED -Ideas worth spreading <http://www.ted.com>

有限責任会社 TED Conferences（テドまたはテッド）により運営されるプレゼンテーション視聴サイト（無料配信）。著名人、有名人のプレゼンを視聴することができます。日本語字幕付き動画（<http://www.ted.com/translate/languages/ja>）も数多く配信されており、世界トップクラスのプレゼンは必見です。

田中佐代子『PowerPoint による理系学生・研究者のためのビジュアルデザイン入門』

講談社 2013 年

書名の通り、理系向けのプレゼンスライド、ポスター改善指南書。色使い方やグラフの見せ方などをイラストで分かりやすく解説しています。すでにスライドやポスターを作ったことがある人も、これを読めばぐっと良くなること必至。

ISBN: 9784061531505 学内所蔵：本館、北図書館、薬・農・水産学部図書室

石坂春秋『レポート・論文・プレゼン スキルズ』くろしお出版 2003 年

アカデミックスキルセミナーで紹介する内容を収めたスキル本。スキルの要点がコンパクトにまとめられています。トピックスごとに細分して紹介されているので、空いた時間に読み進められます。

ISBN: 9784874242735 学内所蔵：本館、北図書館、文・教育・水産学部図書室

ガー・レイノルズ『プレゼンテーション Zen 第2版』ピアソン桐原 2012 年

Zen（禅）の教えをもとに、プレゼンテーションの方法を紹介した、ガー・レイノルズの主要著作。プレゼンの構成から、スライド作成、発表中に気を配る点まで、「伝わる」プレゼンのヒントが詰め込まれています。読んでおきたい名著です。

ISBN: 9784864010870 学内所蔵：本館、北図書館

ガー・レイノルズ『シンプルプレゼン』日経 BP 2011 年

「シンプル」をテーマに、プレゼンの基本理念を説いた一冊。「プレゼンテーション Zen」の内容を凝縮した構成となっています。図や写真が多く用いられ、サクッと読めるので、時間のない人にもオススメ。付属 DVD はプレゼンテクニック満載です。

ISBN: 9784822230548 学内所蔵：北図書館

酒井聡樹『これから学会発表する若者のために一ポスターと口頭のプレゼン技術』共立出版 2008 年

有名な学会発表の指南書。例題はやや？独創的ですが、豊富で分かりやすい作りになっています。ポスターとプレゼンを網羅しており、参考書として手元に置いておくに十分な内容です。

ISBN: 9784320005792 学内所蔵：本館、北図書館、理・薬・工・農・水産学部図書室

高橋佑馬, 片山なつ『伝わるデザインの基本 よい資料を造るためのレイアウトのルール』技術評論社 2014 年

ポスターやスライドのレイアウトについて書かれたスキル本。デザインに特化した内容で資料としての価値が高い。文字や色の使い方まで幅広く解説されている。スライドだけでなく、論文の図・表作成や、申請書作成にも役立つ一冊。

ISBN: 9784320005792 学内所蔵：本館、北図書館、理学部図書室